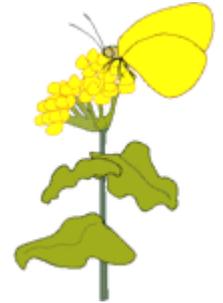


えとクリニック通信

2016 春 No38



「当院での上手な治療の受け方」

当院では、来院された方に、まず基本的には3つの事をおたずね致します。

- ① どの具合が悪いですか？
- ② いつ頃から具合が悪いですか？
- ③ どういう時に具合が悪くなりますか？

これらを元に、ときにはさらに詳しくお話をうかがいます。

そして必要により検査を予定します。

問診の内容と検査の結果から、治療方法を考え処方致します。そのため処方、ひとりひとりに合わせて種類や量を細かく調整します。

このように問診を非常に重視していることが、当院の処方は良く効くと評価されている理由と考えています。

最初の処方で、すっかり症状がなくなってしまう方もいらっしゃいますが、これはお薬がちょうど良く効き始めた状態であり、治った状態とは異なります。ここで治療をやめてしまうと、徐々にまた元の状態に戻ってしまうことがあります。

また、症状が良くなるまでにしばらく時間がかかる方もいらっしゃいますが、この場合はさらに細かい調整が必要です。一度で薬が合わないとか、治らないとかあきらめずに、治療をもう少し続けてください。

治った状態にするためには、調子がすっかり安定し、お薬を減量できる状態になるまで、根気強く治療を続けていただくことが大切です。

木下 和賀子



「血圧脈波検査」

血圧脈波検査で血管の状態を見てみましょう

生活習慣病で治療されている方や通院されている方に、血圧脈波検査をお勧めしていますのでご紹介します。

血圧脈波検査（ABI・PWV）は両手足に血圧を測定し、比較することで血管の硬さや狭窄を調べる検査で、動脈硬化の度合いや早期血管障害を検出することができます。

* ABI 検査（足関節・上腕血圧比）は足首と上腕の血圧を測定し、その比率により血管の狭窄の程度がわかります。

* PWV 検査（脈波伝播速度）は心臓の拍動が動脈を通じて手や足に届くまでの速度により動脈硬化の程度がわかります。

動脈が硬いほど到達速度は速くなります。

検査は非常に簡単で、両手両足の4カ所の血圧を同時に測定するだけです。5分程度で終わります。

動脈硬化は生活習慣病（高血圧・糖尿病・高脂血症）や肥満、喫煙などの危険因子により起こります。進行を放置すると心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こす原因になります。



現在の血管の状態を把握し、より健やかにお過ごしいただけるよう定期的な検査をお勧めしております。

詳しくは職員におたずね下さい。

中野渡 文子



受付からのお知らせ

《保険証確認のお願い》

国からの指導により、保険で診療を受けられる皆様は、月に1回保険証を確認させて頂いております。そのため保険証を確認できないときには、誠に申し訳ありませんが一時的に全額自己負担(10割)扱いで請求させて頂きますことをご了承下さい。

《最近処方箋やお薬をなくされる方が増えています》

国の健康保険法により、万一なくされた場合は保険での再発行はできないことになっております。再発行を希望される場合は全額自己負担(10割)となりますので、どうか、処方箋やお薬をなくされませんようお願い申し上げます。

《十和田市肺炎球菌ワクチン》

平成28年度に肺炎球菌ワクチンの接種対象になる方は

- * 過去に肺炎球菌ワクチンを接種しとことがない方
- * 平成29年3月31日までに65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳100歳以上になられる方です。

薄ピンク色の「十和田市肺炎球菌ワクチン予防接種予診票」をお持ちの方で希望される方は、期限が平成29年3月31日までです。お早めにスタッフにお申し出下さい。

坂本 とも子

* * * 編集後記 * * *

待合室の雑誌に『日経WOMAN』が加わりました。様々な分野で活躍されている女性がいろいろのことを教えてくれます。仕事に生活に、どうぞお役立て下さい。

えとクリニック TEL 0176-25-2525